

図1 (5) -10 SORTによる同一個体判別結果の例

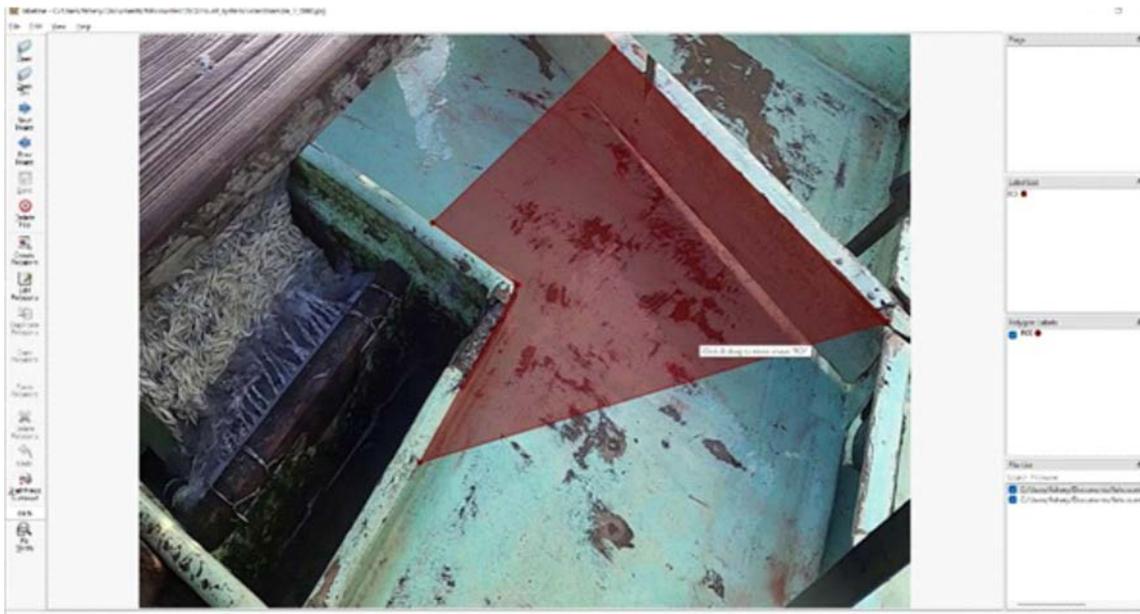


図1 (5) -11 解析対象領域の設定

[今後の課題]

表 1 (5) - 1 月別の調査日数とデータ数

月	調査日数	ロガーおよび漁獲データ数
10月	11日	36
11月	13日	33
12月	14日	15
1月	7日	16
2月	5日	20
計	50日	120

- ・本漁業での船上での漁獲データは漁業者がノートに記録している。電子化には、漁獲データを入力するアプリである「操業日誌」を活用することを予定していた。しかし現状では、「操業日誌」を利用する段階には至っていない。現在の漁獲データは漁業者が漁獲量等を記載したノートを写真撮影してタブレットに保存している。このデータを入手するためには漁業者からタブレットを回収しなければならない。また、位置情報として重要なGPSデータが曳網中は入手できないという問題も今後解決する必要がある。
- ・また、メーカーのサーバからメールで送信されるロガーデータには一部のデータが欠損することも問題として残っている。このため現状ではメーカーから生データを受け取る必要がある。データの欠損は、サーバでデータを統合する際に何らかの原因ですべてのデータを統合できないためとされるが、原因は不明である。
- ・本年度の尾数計数システムについては、画像解析プログラムは改善されたが、釣獲試験数が少なかったことから船上で実用となる撮影装置開発までには至らなかった。今後も撮影装置システム開発を進める。

[資源調査評価事業に受け渡す事項]

沖合底曳網に係る調査（対象魚種：ハモ、アオメエソ、イボダイ、カイワリ等）

[成果の発表]

- ・令和3年度中央ブロック資源評価調査（イサキ・むろあじ類・マルソウダ）検討会において、当事業の取組について報告（令和4年2月9日）